

今週のメニュー

■トピックス

◇SNSタイアップ広告・第一弾 ～ダイオキシンと塩ビ～

■随想

◇自然に親しむ～野鳥観察を通して～

内田 陽一（元 塩ビ工業・環境協会）

■編集後記

■トピックス

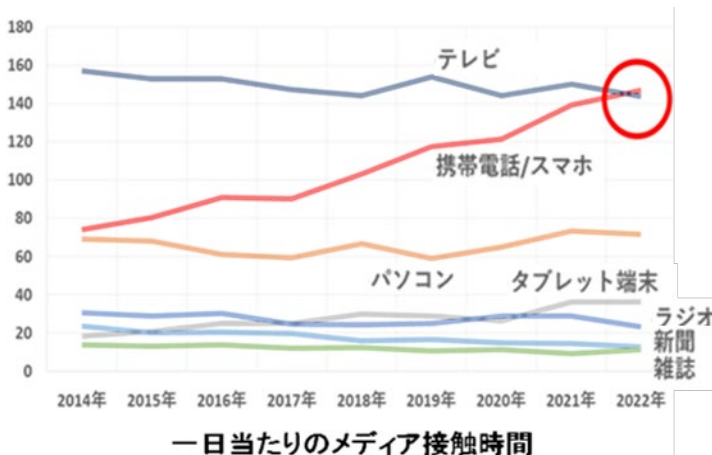
◇SNSタイアップ広告・第一弾 ～ダイオキシンと塩ビ～

7月28日、塩ビ工業・環境協会（VEC）は、初めてSNSを使ったタイアップ広告を行いました。タイトルは『これ、何で出来ているか知ってる？』小学生が差し出してきた消しゴム 実は… です（公開から一週間で35,000人に読まれ、295いいね！）。

ご存じのように、SNSは「Social Networking Service」の略で、ソーシャルメディアと呼ばれることもあります。FacebookやX（旧Twitter）、Instagram、LINE、YouTubeなどが主要なメディアで、読者の中には、既に利用されている方も多いのではないでしょうか？ 最近では個人での使用に留まらず、マーケティングや情報の周知などを目的に一般企業や地方自治体、公共団体の利用が増えています。

一方、昨今の情報媒体の多様化に伴い、長い間、主要メディアだったテレビがスマホに取って代われ（下図、2022年）、パソコンやタブレット端末を含めた電子媒体が主要メディアになりつつあります。このような状況において、SNSはますます存在感を高めています。実のところ近頃の若者は部屋にテレビを持たず、スマホで代用している人が増えているようです。

このような中、VECは塩ビへの正しい理解



を推進するべく広報活動を展開してきましたが、上記のような情報媒体の変化にどのように対応するかが課題でした。

そこで、試みとして SNS を広告媒体としたタイアップ広告を行いました。テーマは『ダイオキシンと塩ビ』です。塩ビに関しては、既に解決しているダイオキシン問題ですが、実は、VEC のホームページにあるダイオキシン関連の記事は、一年間で 10,000 人近い方が閲覧しており、地味に関心が高い案件です。また、ホームページの Q&A でも多くの質問を受ける案件でもあります。



今回のタイアップ広告では、可燃ごみの燃焼温度を 800°C に高めるなど、対策が完了している日本ではダイオキシン問題が既に解決している事を中心に、塩ビ製品が便利で衛生的な社会生活に貢献していることも含めて、読みやすい漫画と解説記事で訴求する内容となっています（漫画家＝羊の目。氏）。主婦層や若い方が興味を持って、スツと読めるように工夫しながら構成しています。是非、次の URL から確認ください。

広告 URL = <https://grapee.jp/1404265>

ちなみに、広告開始から約一週間で 35,000 人に読まれ、295 いいね！を頂いています。読了率も高く、広く主婦層と若い方に読まれており、今後の SNS を使用した広報活動の在り方を示唆しているものと思われます（下にコメントの一部を紹介しました）。

【コメント（一部抜粋）】

- ・これは知らなかったわ！
- ・ダイオキシンは「焼き鳥(塩)」でも発生します。

以上、今回は第一弾をご紹介しましたが、既に、第二弾の準備が進んでいます。9月に公開する予定なので、ご期待ください。

■ 随想

◇自然に親しむ～野鳥観察を通して～

内田 陽一（元 塩ビ工業・環境協会）

私は2014年から2022年まで塩ビ工業・環境協会に在籍していました。当時は東京に住んでいて、休日には自転車で近くの公園や河川敷などへよく出かけては、野鳥を観察したり、風景を撮影したりして自然を楽しんでいました。幼少期は自然に囲まれた環境（いわゆる田舎）で育った経験もあって、動植物の生態や地球環境に高い関心をもってきました。かつて昭和の高度経済成長期には大気汚染や水質汚染などの環境問題が大きな話題となった時代がありましたが、その後の法整備や環境対策が進んで河川や湖沼池など自然環境が戻っているケースもあります。ここでは、自然を見て歩いて感じたことや学んだことを紹介したいと思います。

よく出かけた場所は、武蔵野三大湧水池に数えられている井の頭池（三鷹市井の頭恩賜公園）、善福寺池（杉並区善福寺公園）、三宝池（練馬区石神井公園）をはじめ、善福寺川緑地・和田堀公園（杉並区）、小金井公園（小金井市）、野川公園（三鷹市他）などです。ちなみに、武蔵野三大湧水池というのは、多摩川の扇状地でできた武蔵野台地の端や崖線から清水が湧き出ている所にあります。これらの湧水池は江戸時代に上水や農業用水の水源として利用され、当時としては貴重な存在であったことに由来していると言われています。

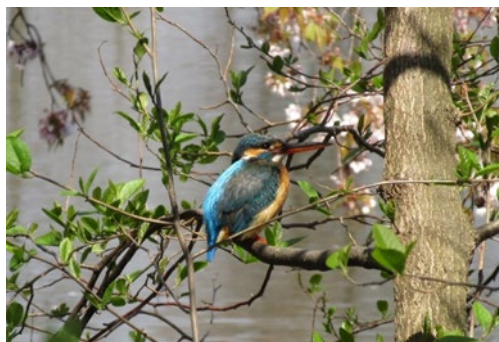
さて、野鳥の中で頻りに観察していたのがカワセミで、その話をしたいと思います。カワセミを漢字で書くと翡翠、魚狗、川蜉などの表記（別名）があります。清流に住んでいて美しい青緑色（エメラルドグリーン）の羽をしているので、「溪流の宝石」とか「飛ぶ宝石」とか言われています。子供のころは小川でよく見かけたことがありましたが、いつのまにか見かける機会が少なくなってきました。水質の悪化や河川工事の影響で自然環境の変化に伴い個体数は減ってきているようです。私が東京に来てから都内の河川や公園でカワセミを見つけた時には驚きましたが、このような景色が見られるようになったのも近年水質が改善され、自然環境の保全が進んできている結果と言えるのではないのでしょうか。



善福寺公園



石神井公園



カワセミ

それでは、カワセミの生態や特徴についていくつか紹介します。カワセミの羽の輝きは青い色素が含まれているわけではなく、構造色によって目に映っています。光の当た

り方によっては青や緑に見えることもあります。羽の表面は目に見えないほど微細な構造になっていて、そのために光の干渉が起き、輝いて見えます。これは分光に由来する発色現象によるもので、身近な構造色にはコンパクトディスクやシャボン玉などが挙げられます。



エサを捕獲する様子

カワセミは水辺に生息していて、水中の小魚や虫などをエサとしています。木の枝があるようなところに静かにいて、水中をじっくり観察し、一気に水中に飛び込んでエサを捕まえます。このため、カワセミは体の割には長いくちばしをもっていて、水の抵抗を最も小さくする飛行形態をとります。かつて、このカワセミの特徴が新幹線の開発において車体の改良のヒントになった話は有名ですね。トンネルの騒音問題の解決に貢献したと言われていています。

また、カワセミが水中のエサを確実に捕まえることができる特徴がもう一つあります。それは水中に飛び込んだ時に目からゴーグル状の膜を出すことで、水中でも確実に獲物を狙うことができます。また、前述したように羽が微細な構造をしているので水中で濡れにくく、エサを捕って戻った時に水をはじきやすいことから、素早い行動ができて大きなエサ（小魚やエビなど）も捕獲できると考えられます。大きな獲物の場合には枝に打ち付けて締めたり、地面に叩きつけて砕いたりして食べるようです。



カワセミのメス（左）とオス（右）

くちばしの色の違いで、オスのくちばしは黒く、メスのくちばしの下側は赤い色をしている点です。

カワセミはオスもメスも同じような色をしているので見分けが付きにくい点も特徴です。その理由は、カワセミはなわばりをもっていて、敵に対して目立つ役目をしていると考えられています。カワセミは、池や川の崖に巣をつくってまわりになわばりをもっていますが、特に子育ての時期は、オスもメスも鳴きながらなわばりを飛びまわって見張りをします。そんなとき、カワセミの鮮やかな色は、近づいてきた敵に自分がいることを示して、目立つ役目をしているのです。ところで、観察する際に見分けるポイントは

一般的に小鳥は同じ場所にじっとしていることはまれで、撮影する際には苦労します。

それに比べて、カワセミはエサを捕食した場合には長時間同じ木の枝に留まっていることがよくあるので助かります。今回はカワセミを取り上げましたが、その他にも四季折々の渡り鳥や珍しい鳥を探していろいろな生態を観察しながら、生物多様性の保全の大切さを感じています。

《つづく》

■ 編集後記

PVC(塩ビ素材)の特長を活かした製品のコンテスト PVC Award 2023
～大賞 100万円! 2023年7月1日より募集開始～

PVC Award 実行委員会では、「生活を豊かにする PVC 製品」をテーマに、PVC (塩ビ素材)の特長を活かした魅力ある製品を公募し表彰するコンテスト『PVC Award 2023』を開催。2023年7月1日(土)より作品の募集を開始しました。

PVCは、省資源で加工性、印刷性、耐久性、難燃性、耐腐食性、リサイクル性などに優れたプラスチック素材です。このPVCの特長を活かして、製品に機能を付与することで、私たちの生活の利便性向上やリサイクル、医療・福祉、安全、防災など社会に貢献している製品を募集します。

応募していただいた作品の中から選考により、大賞(副賞100万円)、優秀賞(副賞10万円)、特別賞(副賞5万円)、入賞(副賞2万円)を決定します。また、入選作品を中心とした応募作品の展示会を東京と名古屋で開催します。奮ってのご参加をお願いします。

募集要項、応募方法、スケジュール等の詳細は公式ホームページ(<http://www.pvc-award.com>)でご確認ください。

(PVC Award 実行委員会)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp